「京都の歴史を歩こう！―粟田口編―」歴史遠足報告

藤澤　愛

1．　はじめに

2018 年 12 月 15 日、京都学・歴彩館寺子屋講座として、歴史遠足「京都の歴史を歩こう！―粟田口編―」が開催された。今年度は「創造（クリエイト）」をテーマに粟田口周辺の歴史を解説した。以下、当日の流れとそれを踏まえての反省点を述べていきたい。

2．　出発

当日、学生が午後 9 時半に地下鉄東西線蹴上駅に集合し、改札付近で参加者の受付を開始し、参加者に名札と地図、クリップボードを渡した。その後、受付を終えた方から順に学生 1 人と参加者 2，3 人からなるグループを作っていった。今回の遠足では、グループは通行ルートが狭く大人数では危険であるという都合上、あらかじめ先発班と後続班の 2 班に分けられていた。午前 10 時頃に参加者全員が集合し終え、学生代表からの挨拶、遠足のテーマ説明と遠足の注意事項の説明がおこなわれ、遠足がスタートした。先発班は説明が終わった後すぐに出発し、その 10 分後に後続班が出発した。

3．　ねじりまんぽ・インクライン・蹴上発電所

駅から地上へと出た後、インクライン沿いの道を西に歩いてまずはねじりまんぽへ向かった。道中では、遠足で立ち寄る場所の多くに関わる琵琶湖疏水の概要について、メンバーが参加者に個別で説明した。ねじりまんぽへ到着すると、どのような想いで琵琶湖疏水がつくられたのかということについて説明した。

説明が終わると再びインクライン沿いを歩き、復元された三十石船が置かれているところでインクラインの説明をおこなった。インクラインがなぜこの場所に設置されたのかについて、蹴上の土地が急勾配であったからであることや、目の前の仁王門通りを京都市電が通っていたことを架線柱跡を示しながら紹介した。

来た道を少し戻って横断歩道を渡り、蹴上発電所の前の広場に集まって発電所の説明をした。ここでは疏水の水で水力発電がおこなわれていたこと、発電所が京都の近代化に欠かせないものであったことなどを説明した。さらに疏水との関連で、発電所の南側にある都ホテルに作庭家の小川治兵衛が疏水の水を用いて作った葵殿庭園があることも説明した。

写真１　第二蹴上発電所の説明

写真２　鍛冶神社の説明

４．　粟田神社

蹴上発電所を出発した後、三条通りを都ホテルに沿って西に歩いた。道中では都ホテルの前身であった吉水園のことなどを話した。仏光寺の周辺まで来たところで、参道で仏光寺の説明をおこなった。ここには刀匠である三条小鍛冶宗近がこの周辺に住んでいたとされることを示す古跡碑が残っていることをスケッチブックで紹介し、今後紹介する刀と信仰を語る上での前置きとした。

仏光寺を出発して、三条通りの一本南の通りを西に歩いた。道中では良恩寺があることなどを確認した。

粟田神社に到着すると､はじめに粟田神社の鳥居の前で粟田神社についての概説をおこない、粟田神社境内にある鍛冶神社に向かった。鍛冶神社では、祭神である粟田口藤四郎吉光が作った太刀を持っていた人物はだれか、というクイズを行った。参加者は思い思いの選択肢に手を挙げて楽しんでいた。

その後本殿に続く坂を上り、神楽殿の前で粟田神社の祭礼についての説明を行い、そこで10分間の休憩を設けた。休憩時間中、メンバーと参加者はお参りをしてから、自由に境内を散策した。末社に興味を示す人もいれば、建造物に掛けられた能を奉納した時の額を眺めている人もいた。

休憩が終わった後は階段を下りて、粟田神社参道にある「粟田焼発祥之地」と書かれた石碑の前で粟田焼の説明をおこなった。

５．　合槌稲荷神社

粟田神社の参道を出て、横断歩道を渡って合槌稲荷神社に向かった。ここでは、この神社が三条小鍛冶宗近の屋敷神とされている神社であること、稲荷神であるのは稲荷が火伏や水の神とされているからで、火や水を使用する鍛冶職人たちに信仰されていたことを説明した。有次という錦市場にある包丁の老舗がこの神社に鳥居を寄進していることを聞いた参加者からは驚きの声が聞こえた。

６．　並河康之七宝記念館

合槌稲荷を出発して三条通りを西進し、平安神宮の鳥居を眺めつつ、並河康之七宝記念館へとつづく道に入っていった。

並河康之七宝記念館の前で、七宝の説明や並河康之が七宝でパリ万博や内国勧業博覧会で高い評価をうけたこと、その成功を受けて、自宅の、７代目小川治兵衛による琵琶湖疏水の水を使った庭を巴里庭と呼んだことなどを説明した。

７．旧竹中邸

並河康之七宝記念館を出発した後、白川沿いを北に向かって歩いた。旧竹中邸は、疏水の水を用いて水車を回して製麦業を営んでいた家で、現在水車小屋を改装し「時忘舎」というギャラリースペースとして生まれ変わっている。ここではメンバーの説明以外にも、以前に竹中邸に住んでおられて、現在は水車の竹中みちの保存活動をされている竹中さんに、水車について伝え聞いたことや、今後どのように水車小屋を使っていきたいかなどといったことを話していただいた。

旧竹中邸を出発し、道中で竹中家によって大正６（1917）年に建てられた水車稲荷を確認した。その後、三条通りの一本北の道を歩き、家の敷地が傾いている部分を指して、ここに京都市中心部と大津をつなぐ京津電気軌道が走っていたことを話した。京津電気軌道が通っていた当時のことを知っている参加者の中には、当時の事を思い出しながら語ってくれる人もいた。

最後に地下鉄東西線東山駅で、学生代表が挨拶して解散となった。参加者にアンケートを配布し、帰り際に当日の遠足の補足資料を渡した。

8.　１年間の準備と歴史遠足を終えて

解散後、午後２時頃に大学で反省会をおこなった。メンバーはアンケートの意見・感想を読み、事前学習から遠足終了までの問題点、改善点について話し合った。全体的に高評価を得たが、事前の準備不足やメンバーの役割の明確化など、反省すべきことも多いことを再認識した。これらは来年度の歴史遠足をより充実したものとするため次年度の担当学生にも伝えていきたい。

今回、歴史遠足の企画・運営を通して、インプットした情報を第三者へアウトプットすることの難しさと楽しさを学ぶことができた。この経験を今後もさまざまな場面で活かしていきたいと思う。

〈参加学生〉

池田野々花・伊藤美梨子・菊川歩夢・小林楓・篠原光・正瑞千幸・鈴木更紗・鈴木美命・竹河果穂・長谷川巴・藤澤愛